

# 創作と新しい保存伝承のスタイルづくり

## 横仙歌舞伎保存会

### 活動の目的

奈義町に伝わる昔話「さんぶたろう」を脚色した創作歌舞伎を横仙こども歌舞伎教室生たちで初演をめざしました。奈義町に実在中世の侍「菅原三穂太郎満佐」は大人とも云われ、京都まで三歩で歩き、村のために働き、多くの人に慕われました。現在でも亡骸を祭る神社は「五体社」と呼ばれ多くの人に親しまれています。創作歌舞伎の取り組みを通じて指導体制の強化、活動の活性、生涯学習の場面づくりを目的としました。

### 活動の内容及び経過

思いがけない新型コロナウイルスの感染拡大で、教室の開始も遅れ、その後も何度も中断しながら小学生は新作「菅原伝譚栄奈義 さんぶたろうものがたり」に中学生は「仮名手本忠臣蔵五段目山崎街道」に取り組みました。新作歌舞伎は平成29年に福武教育文化振興財団の助成金を受け、元NHKアナウンサーで、歌舞伎や伝統芸能全般に深い造詣をもち、執筆、講演活動をされている葛西聖司さんに書き下ろしていただき、これまで上演への準備を進めてきました。劇中には照明効果やスクリーンにアニメーション投影したりサウンドエフェクトなど新しい試みも取り入れました。舞台の黒衣や機材の操作も中学生で行い、登場する舞台道具も自分たちで色塗りするなど積極的な関わり方を進めました。

### 活動の成果・効果

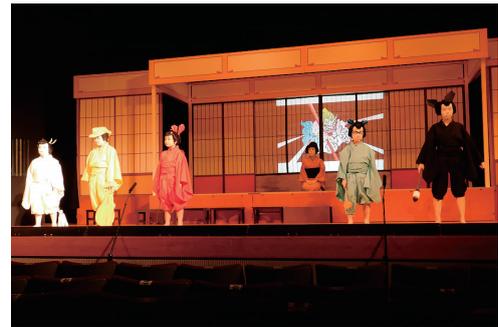
創作歌舞伎の初上演は暗中模索でした。コロナ禍のためプロの講師を招いての研修は出来ませんでしたが、そのことで保存会の中で創意することとなり、結果としては新しい体制づくり、自分たちの自信につながりました。恒例の秋の公演は無観客での開催となり、撮影編集したものをYouTube「よこせん歌舞伎チャンネル」にアップすることになりました。今年の公演だけでなく過去の公演なども公開することで、今まで奈義町に来ないと観られなかった「横仙歌舞伎」をより広く知ってもらえるツールを手に入れることができました。

### 今後の課題と問題点

持続的な活動体制の維持、とくに裏方の人員は危機的な状況となっており、コロナ渦の中、公演イベントの規模縮小でようやく乗り切れた感があります。同じ人が長く続けることも大切ですが、代謝しながら活動を続ける人材育成、研修活動を検討していきます。



大道具づくりも教室生で



初上演の「なぎのいやさか」



音響や照明もこども歌舞伎教室生で



中学生の「山崎街道」

Youtube「よこせん歌舞伎チャンネル」



- 代表者：奥正親 ●所在地：勝田郡奈義町豊沢
- TEL：0868-36-3034 ●E-MAIL：shakai@town.nagi.lg.jp
- URL：https://www.facebook.com/横仙歌舞伎保存会-1559651904306507/
- 設立年：1966年 ●メンバー数：55名